

すわしかプロジェクト事業

取組に至る背景・事業の目的

- 諏訪地域で農林業に大きな被害を及ぼしている有害獣のうち最も駆除数の多いニホンジカの食肉利用は駆除数の16%程度にとどまっているうえ、1頭のうち食用となる部分は少量に限られ、大部分を残渣として廃棄している。
- この残渣のうち皮や角を加工品などに有効活用することで残渣廃棄量の削減を図り、狩猟者の負担、環境への負荷を軽減したい。当事業は、市町村の枠を越えた複数の民間解体処理施設との協働による取組みであり、諏訪地域のニホンジカ駆除の効率を高めることが期待される。

事業内容

- 諏訪6市町村で有害獣として捕獲されたニホンジカの皮でなめし革を作成し、雌雄や年齢の違いで大きさや厚さ、柔軟性が大きく異なることが分かった。
- そのなめし革を使って加工品を試作し、シカ革の特徴を生かせる製品を研究した。また、シカ革の大口需要者を開拓し、なめし革を売却した。さらに、シカ革製品づくりを事業化したい福祉施設が今後、事業でつくっていききたい製品の試作を行った。



【 なめし皮・試作品の展示 】

事業効果

- シカ革はオスとメスで大きさ・厚さが大きく異なり、なめし加工と試作品製作を並行して進めたことでオス革は大物製品、メス革は小物製品に向くことが分かった。柔らかく軽くて丈夫というシカ革の特徴をよく生かせるのはメス革であると分かった。
- すわしかプロジェクトを進めるきっかけとなった東京のレザーファッション企業からのオファーに対し、今後のビジネスモデルとなる革の供給を行うまでに至った。
- シカ革製品づくりを事業化したいという福祉施設が現れ、今後、施設でつくっていききたい製品の試作を行った。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 原料となる皮や角はあくまで野生のシカから得られるものであり、捕獲した個体が欲しい革の品質を持っているとは限らず、小さい、傷がある、オスとメスで厚さが違うなど同じ品質の革が思うように手に入らないことが分かった。需要家にはできる限り品質のよい革を供給したいが、あくまで肉の副産物であること、また、残渣の減量化という地域の課題解決への貢献にも繋がっていることをPRし、理解してもらいながら革や角の活用を普及していきたい。
- シカ捕獲個体の資源活用による残渣の減量化を図るため、肉・皮ともに大口のオーダーにも供給できる体制づくり、需要家開拓を継続させる。オファーのあった地域の需要家や新たな需要家とともに料理や製品を諏訪地域の特産品にする取り組みを進め、諏訪に行けばおいしいシカ肉料理が食べられ、革や角を使った製品が手に入るというイメージを定着させたい。

【選定のポイント】

肉・皮の製品化により需要が高まり業として成り立つことで、捕獲意欲の高まりによる駆除の促進や、残渣の減少による環境への負荷の軽減が期待される。

団体名	すわしかプロジェクト（諏訪市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	諏訪地方事務所林務課	事業費	473,258円
	電話 0266-57-2919	支援金額	317,000円